第17回和水町文化祭が開催されました

11月12日㊏～14日㊐の３日間、三加和公民館で第17回和水町文化祭が開催されました。

会場では、町文化協会作品をはじめ、町内の保育園や認定こども園・小中学校・福祉施設・町民の皆さんの一般作品など、数多くの作品が展示されるとともに、特別展として、伝統的な歌舞伎文字に現代的な解釈を与え、可能性を模索し活動されている歌舞伎文字勘亭流書家　本間寿鶴氏の作品や、北海道や九州管内を拠点に野生動物の撮影活動を続けられている町内岩地区出身の写真家　横手一敏氏の作品の展示、町内で活動をされていた秀島由己男氏の回顧展（第３弾）も開催され、来場者の注目を集めました。

また、12日㊏・13日㊐の２日間、みかわ手漉き和紙の館では、保存会結成30周年を記念し、紙漉きの体験ブースを設けるとともに、みかわ和紙と繋がりがある山鹿灯籠や来民うちわ、和紙絵が特別に展示され、13日㊐の午後は、点字のオリジナルカードづくり、４コマ漫画の作成、絵手紙や墨絵、箏、フラワーアレンジメントなどの体験ブースも開催され、子どもも大人も芸術・文化の秋を楽しめる文化祭となりました。

３日間で370人を超える多くの人に来場いただきました。ありがとうございました。

大盛況のうちに幕を閉じました

沢山ゴミを拾ったよ！　～菊水ひまわり園ゴミ拾い～

11月１日㊋、『第２回こどもSDGsの日』として、菊水ひまわり園の年長児36人が県営駐車場と江田船山古墳周辺のゴミ拾いを行いました。

今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、園児がゴミを探し保育士がゴミを拾いました。

園児たちは、手にバケツを持って「タバコのゴミがある!!」「沢山ゴミが落ちているね」と言いながら町が綺麗になるようにと一生懸命取り組んでいました。ゴミ拾いを終えた後は、「タバコのゴミが沢山あったね」「マスクのゴミも見つけたよ」と園児同士で会話する姿も見られ、ゴミへの知識を深めた子どもたちでした。

また、今年は園内作品展の共同製作で『SDGs』をテーマに製作を行い、環境について学んだ子どもたち。作品に使った廃材がゴミとして捨てられていることを目の当たりにし、ゴミへの関心が広がり、さらに環境を大切にする意識が高まったようです。

最後はみんなで記念撮影！

専修大学玉名高等学校吹奏楽部（ベンチャーズ）の生演奏を鑑賞

11月５日㊏、「和水町教育の日」小学校音楽会が和水町体育館および三加和中学校体育館で行われ、ベンチャーズの生演奏を鑑賞しました。

歩いて演奏するだけでなく、音楽に合わせて軽やかに旗を使ってダンスをする姿に、児童たちは感動。代表児童の指揮に合わせた校歌の演奏や楽器の紹介もあり、大きな拍手が送られていました。

大迫力の演奏に感動

給食と本がコラボした「おはなし給食」

11月15日㊋、食への関心を高め、図書に親しみを持ってもらうための「おはなし給食」が菊水小学校で行われました。

本のお題は「目黒のサンマ」で、給食のメニューにはサンマの塩焼きがあり、残すことなく美味しそうに食べる元気な児童の姿を見ることができました。

また、給食を食べ終わった後に、教育長より今回のサンマと次回の「バムとケロのさむいあさ」の「さつまいものスープ」についての話もありました。

食事と物語の両方を楽しむ、特別な給食になりました

中山間農業奮闘記　vol. 6

板楠小原集落営農組合では、水田フル活用に向け、コンバインやトラクターなどを新たに導入し、４年前から小麦の栽培に取り組んでいます。組合で栽培している小麦は中力粉となる品種「シロガネコムギ」です。栽培面積も徐々に拡大し、今年度の作付けは４haを超えました。収量も年々増加しており、今後も排水対策や栽培技術の基本管理徹底により、所得向上を図っていきます。

栽培講習会のようす

和水町のキャラバン・メイトが新たに誕生
玉名圏域キャラバン・メイト養成研修終了

11月20日㊐と26日㊏に、令和４年度玉名圏域キャラバン・メイト養成研修を玉名市で開催しました。

キャラバン・メイトとは、自治体事務局などと協働して地域や職場・学校などで認知症サポーターの育成を行い、認知症になっても安心して暮らせる町づくりに向けて、リーダー役となって活躍していただく人のことです。

和水町からは医療・福祉関係者の５人が参加。２日間の研修を終了し、晴れてキャラバン・メイトとなりました。

橋本　香織 さん（和水町社会福祉協議会）＝左から１人目
桑本　恵美 さん（和水町社会福祉協議会）＝左から２人目
中島　　悠 さん（清風苑：理学療法士）＝左から３人目
橋本　優貴 さん（清風苑：介護福祉士）＝左から４人目
中嶋　　勉 さん（清風苑：作業療法士）＝左から５人目